

# 令和4年度 事業計画書

(令和4年4月1日から令和5年3月31日まで)

学校法人 滋賀学園

# I 法人の概要

## ・ 設置する学校の概要(令和4年4月1日現在)

学校名	学部	学科	定員		現員	
			入学定員	総定員	入学数	総数
びわこ学院大学	教育福祉学部	子ども学科	80	340	72	336
			3年次編入 10		2	
		スポーツ教育学科	40	170	29	121
			3年次編入 5		2	
びわこ学院大学 短期大学部		ライフデザイン学科	80	160	83	142
滋賀学園高等学校		普通科	310 (外部募集 240) (内部進学 70)	930	181 (外部 170) (内部 11)	522
滋賀学園中学校			70	210	- (募集停止)	32
びわこ学院大学 附属こども園あっぷる			80	80	19	73

## ・ 役員・教職員の概要(令和4年4月1日現在)

### 【役員】

理事	理事長 森 美和子 (常勤)	監事	森谷 伊三男 (非常勤)
	理事 沖田 行司 (常勤)	監事	清水 忠和 (非常勤)
	理事 近藤 芳治 (常勤)		
	理事 森 亘 (常勤)		
	理事 鈴木 武夫 (非常勤)		
	理事 中村 功一 (非常勤)		
	理事 豊田 三郎 (非常勤)		
	理事 竹脇 義成 (非常勤)		

### 【評議員】

評議員 17名

### 【教職員の概要】

	教員 107名	教員 90名	職員 24名	職員 24名
	(専任)	(非常勤)	(専任)	(非常勤)
<内訳>	びわこ学院大学	} 教員 37名	} 職員 19名	職員 15名
	びわこ学院大学 短期大学部			
	滋賀学園高等学校	教員 42名	職員 2名	職員 3名
	滋賀学園中学校	教員 9名		職員 1名
	びわこ学院大学 附属こども園あっぷる	教員 16名		
	法人本部		職員 3名	職員 2名

## II 学園の法人会議及び監査について

### ◇法人の会議等

〈理事会・評議員会〉

年月	会議区分	議題等
令和4年5月	評議員会	1. 令和3年度事業報告について 2. 令和3年度決算について 3. 令和3年度監査報告について
	理事会	1. 令和3年度事業報告について 2. 令和3年度決算について 3. 令和3年度監査報告について
	評議員会	1. 令和3年度決算報告について
令和4年9月 (予定)	評議員会	
	理事会	
令和4年12月 (予定)	評議員会	
	理事会	
令和5年3月	評議員会	1. 令和5年度事業計画について 2. 令和5年度予算について
	理事会	1. 令和5年度事業計画について 2. 令和5年度予算について

### ◇法人の監査等

年月	内容
令和4年4月	期首監査(公認会計士)
令和4年5月	令和3年度決算監査(公認会計士)
令和4年5月	学園監事による公認会計士からの監査状況報告聴取
令和4年5月	学園監事による令和3年度監査
令和4年9月	滋賀県私学・県立大学振興課による現地調査
令和4年10月	中間監査(公認会計士)
令和5年1月	中間監査(公認会計士)

### Ⅲ 事業の概要

#### 1. びわこ学院大学・びわこ学院大学短期大学部

##### <重点項目>

##### 1. 教学マネジメント体制の充実

- ① 経営戦略 IR 推進会議
- ② IR 情報を活用した教育の質の向上
- ③ 任命部長の役割の明確化(組織の機能化)
- ④ 外部評価委員会の開催

##### 2. 研究制度の充実

- ① 個人研究費の申請制度—科研費への連動
- ② 学内学会設立準備
- ③ 学長裁量経費の運用

##### 3. グローバル化の推進・魅力ある大学づくり

- ① 留学生 30 万人計画に基づく留学生入学の強化  
湖南文理学院との交流協定拡大（短期大学部→四大）
- ② 海外の研究機関及び大学生とのオンラインを通じた共同研究と教育交流に向けた検討
- ③ 海外研修の実施に向けた検討
- ④ グローカル文化研究所の創設に向けた検討

##### <具体的施策>

##### 1. 学生の受入れ

- ① メディア広報の活性化
- ② 入学者選抜の実施方針、入試内容の検証及び見直し
- ③ 学長・教員の講演活動を通じた広報と認知度向上

##### 2. 学修支援

- ① 教員・職員等による学修支援体制の運用と点検
- ② SA (Student Assistant) 制度 効果検証に基づく導入科目の再検討
- ③ 大学全体としての学外実習体制の確立

##### 3. キャリア支援

- ① 「びわ学キャリア塾」の成果の検証および修正
- ② 教員採用試験・公立幼稚園採用試験に向けての指導体制充実
- ③ 一般就職支援—企業の学内説明会
- ④ 地元企業との協定及び連携

##### 4. 学生サービス

- ① 学修支援のニーズ把握、総体的な支援策整備
- ② 高等教育の学修支援新制度の対応体制の強化
- ③ 学生生活の安心・安全を図る感染症対策の徹底

5. 学修環境の整備
  - ① 学修環境の整備
  - ② 学生の図書館利用頻度の向上
  - ③ 教職員ならびに学生のニーズに基づく図書館機能の充実
  - ④ ラーニングコモンズの活性化と有効利用
  - ⑤ 特色ある図書館の創出
  - ⑥ 大学紀要に関する教員の理解促進、投稿数増加、継続発行による紀要の充実
  - ⑦ 施設・設備の利便性向上
  
6. 学生の意見・要望への対応
  - ① 在学生の学生生活実態調査および満足度調査
  - ② 学長と学生との懇談会
  - ③ 卒業生アンケート調査（SNS 対応）
  - ④ 学生相談室、カウンセラー配置による学生相談体制の充実
  - ⑤ 学長専用メールアドレスの周知
  
7. 単位認定、卒業認定、修了認定
  - ① 進級基準・卒業認定基準等の周知
  - ② 進級基準・卒業認定基準等の適用
  
8. 教育課程及び教授方法
  - ① アセスメントポリシーに関する学内方針の検討
  - ② 幼稚園教諭課程の改正に係るカリキュラムマップ(ツリー)とナンバリングの運用と点検
  - ③ アクティブラーニング実施
  
9. 学修成果の点検・評価
  - ① アセスメントポリシーに関する学内方針の検討
  - ② 学修状況の把握・分析、フィードバック
  
10. 職員の研修
  - ① SD(Staff Development)への取組み推進
  - ② IRer 資格取得の推進
  
11. 研究支援
  - ① 研究倫理の確立・厳正な運用
  - ② 科研費等、外部資金獲得増進
  
12. 内部質保証のための自己点検・評価
  - ① 中期目標・計画の点検・修正
  - ② IR(Institutional Research) 組織の体制整備
  - ③ 教職課程の自己点検・評価
  - ④ PDCA サイクル確立及びその機能性の向上
  
13. 補助金獲得の強化
  - ① 私立大学等改革総合支援事業等の補助金獲得に向けた検討

## 【びわこ学院大学教育福祉学部】

1. 子ども学科・スポーツ教育学科共通
  - ① 教育福祉学的視点に基づく教育体制の内容の検討
  - ② 各種審議会、委員会、プロジェクトへの参画、地域貢献
  - ③ 地域に根差した研究と教育の推進
  - ④ スタディスキルズ、キャリアデザイン(授業)の充実
2. 子ども学科
  - ① 教育・福祉の広い分野で社会に貢献できる人材の育成
  - ② 「わくわくフェスタ」企画・実施
  - ③ 1年生や2年生からの実習前実習(教育ボランティア)と専門発展分野の授業との連携の推進
3. スポーツ教育学科
  - ① スポーツを通じた生涯教育・社会教育への貢献
  - ② 高齢者健康教室、親子スポーツ交流、子ども体力UP教室等の企画/提案・実施
  - ③ 各対象体力測定、定期、短期スポーツ教室、スポーツイベント等の企画・実施

## 【びわこ学院大学短期大学部ライフデザイン学科】

1. 児童学コース
  - ① 地域社会に根差し、地域に貢献できる人材の育成
  - ② 教員採用試験対策及び分析の強化
2. 健康福祉コース
  - ① 滋賀学園高等学校との高大連携事業実施及び成果の検証
  - ② 介護福祉士試験対策強化
  - ③ 福祉住環境コーディネーター2級・3級検定試験の合格者増加
3. キャリアデザインコース
  - ① 公務員採用試験対策講座の実施
  - ② 滋賀県インターンシップ推進協議会インターンシップ事業への参加
  - ③ IT情報関係資格の取得者増加

## 【年間行事計画】

1. 入学式、新入生オリエンテーション、卒業証書・学位記授与式
2. 各種講習等
  - ① 保育士等キャリアアップ講習(滋賀県・滋賀県保育協議会)
  - ② 環びわ湖大学地域コンソーシアム 大学地域課題解決支援事業
  - ③ 地域連携講座(東近江市地域振興事業団・湖東信用金庫)
3. キャリアサポート支援事業
  - ① 本学教職員による公務員・一般企業就職・教職採用対策講座
  - ② 東京アカデミー講師による対策講座
  - ③ 就職活動スタートアップセミナー
  - ④ 自己分析セミナー
  - ⑤ 論作文対策講座

- ⑥福祉施設人事担当者模擬面接会
- ⑦インターンシップ実習
- ⑧Web活用就職情報配信・相談
- ⑨企業学内説明会
- 4. 実習連絡協議会
- 5. 介護実習指導者懇談会
- 6. 高大連携
  - 能登川高等学校・水口高等学校・愛知高等学校・滋賀学園高等学校
  - 滋賀県立高等学校生徒対象の連続講座
- 7. 交通・生活安全・防災訓練指導
- 8. ハラスメント研修会（学生対象・教職員対象各1回）
- 9. 大学祭
- 10. FD研修会
- 11. SD研修会
- 12. 大学説明会 草津6/14（火）彦根6/16（木）
- 13. オープンキャンパス
 

第1回	4/23（土）	第2回	6/12（日）	第3回	6/25（土）
第4回	7/24（日）	第5回	8/6（土）	第6回	8/21（日）
第7回	10/23（日）	第8回	12/10（土）	第9回	R5 3/18（土）
- 14. 入試相談会 11/3(祝・木)
- 15. 入学者選抜
  - 総合型選抜(A0) 短期大学部のみ A 日程・B 日程実施
  - 総合型選抜(スポーツ評価) 教育福祉学部のみ
  - 学校推薦型選抜(公募推薦) (前期・後期)
  - 学校推薦型選抜(指定校推薦)
  - 学校推薦型選抜(系列校推薦)
  - 総合型選抜(自己推薦)
  - 一般選抜(前期・後期)
  - 大学入学共通テスト利用選抜(A 日程・B 日程・C 日程)
  - 社会人選抜 (Ⅰ期・Ⅱ期・Ⅲ期・Ⅳ期)
  - 外国人留学生選抜(国内Ⅰ期・国内Ⅱ期)
  - 編入学選抜(指定校推薦・Ⅰ期・Ⅱ期)

### 【施設・設備の充実】

1. 第2・第3駐車場管理システム設置工事
2. 講義室・廊下照明LED化更新工事

## 2 滋賀学園中学・高等学校

### (1) 主な教育の概要

滋賀学園中学・高等学校は、創始者森はな先生が昭和8(1933)年に開設された和服裁縫研究所を起源とする。昭和59(1984)年、建部北町に八日市女子高等学校を開校以来、「誠実・忍耐・努力」を校訓に掲げ、「社会に貢献できる人材の育成」、「進取の精神と剛健な身体の育成」、「豊かな人間性の育成」を教育理念に教育活動に取り組んできた。平成11(1999)年には、男女共学化に伴い、校名を滋賀学園高等学校とし、また、平成15(2003)年には、滋賀学園中学校を開校し、中高一貫教育に取り組んでいる。「国際化」「情報化」「少子高齢」など時代のニーズに柔軟に対応しながら、地元で貢献できる人を育てるという理念に基づく教育活動を展開している。

### (2) スクールポリシー

#### ●求める生徒像 (アドミッションポリシー)

地域社会や国際社会に貢献する人材の育成という本校の教育理念を理解し、本校での学びを通して「他者を思いやり、積極的に自分の能力を高め、自らの人生を主体的に構築したい」という人を求める。

#### ●教育課程の編成と達成目標 (カリキュラムポリシー)

本校における「カリキュラム」とは、教科中心の学習指導に限定されるものではなく、生活指導をふくめた生徒に関わる全ての活動を指すものである。「生徒たちがどう生きるか」を前提にした生活指導と、主体的・能動的な活動を重視した学習指導は、車の両輪のように生徒の成長を支えるものであると考える。

現代を生きる上での必要不可欠なものである高度な英語スキル、ICTリテラシーなどを生徒が中心となるPBL (Project based Learning) 型アクティブラーニングの手法を用いて、深い学びにつながるように本格的な教科学習を展開する。

日本文化やグローバル社会、SDGs (Sustainable Development Goals 持続可能な開発目標) を教科指導の中で考えさせる学びを中心に、SDGsを世代、地域、そして国境を超えて話し合うことができる“共通言語”として捉え、身の回りのことに関心を持つことから始め、将来は世界に目を向けることでそれぞれのキャリア形成に必要な学びを準備し、各学年での学習の位置付けがはっきりと見える教育環境を提供する。

また、系列大学であるびわこ学院大学との連携を活用し、上級学校での専門教育につながる教科指導も実践する。

以上のことを実現するためのカリキュラムを以下の方針に従って策定するものである。

#### ① 世界に興味関心を持ち、使える英語を学ぶ

生徒たちがこれから出ていく社会は、多様な言語や文化、価値観に溢れた社会である。そのような社会では、国際理解の基礎知識だけでなく、活用できる力が必要となる。社会性と集団力、独自性と個人力、社会でリーダーとなり活躍する力を養うことを目的とし、異なる価値観を認め合い協調して新たなものを作り出すために、海外留学などの国際理解プログラムを用意して、生徒が学校や国などの枠を越えて活躍できるようになる教育を行う。

#### ② ICT機器を活用し、論理的思考で課題を解決する

生徒たちは授業の中でICT機器を活用して情報を収集し、論理的に考え、整理し、活発な意見交換を行いながら様々な課題の解決に取り組む。授業や課外活動、行事など様々な場面での活用を推進し、学びを支えるリテラシーや批判的思考力、プレゼンテーション力、自己管理能力を育成し、生徒自らが課題を発見し、解決す



る意欲と能力を育むための21世紀型教育にふさわしい探究型教育を行う。

●卒業までに身につける能力（ディプロマポリシー）

幅広い知識と高い学力、課題解決力を身に付け、特に深い学びから身についた自己発信力を使い、大学や社会における様々な改革に対応できる生徒を育成すること、また、国際的視野を持って主体的に自らの進路や社会の未来を切り拓く力と豊かな人間性を備えた生徒を社会に輩出することと、持続可能な社会の創り手の育成を目指す。

(3) 重点目標と具体的実践

〈滋賀学園高等学校〉

① 確かな学力・発展的な学力を伸ばす教育の実践

新学習指導要領の示す、探究的な学び、生徒が主体的に学ぶことを実践することで確かで、発展的な学力の育成を図る。授業や教材の開発に地域の人材など外部人材を活用し、より良いものとなるよう工夫を行う。教職員集団として学びの共同体の考え方に基づく授業研究に取り組み、教科指導力の向上に努める。生徒の実態を踏まえ、個別指導や習熟度別指導、補充的な学習指導等、個に応じた指導を行う。

② 生徒一人ひとりの自己実現(進路実現)に向けた教育の充実

自己実現に向け自主的かつ粘り強く学習に取り組む生徒を育てる。授業時間数の確保、習熟度別授業、個別指導や学内塾、キャリアサポート(面談、進路講演会、模試分析、進路情報の提供等)の充実を図る。グローバル特進コース(Ⅱ類)では大学入学共通テストの受験者数を増やし、国公立大学や難関私立大学へのチャレンジを推奨する。

③ 海外留学の推進と実践的英語力の育成

国際化に対応した実践的英語力の育成に取り組み、英語のコミュニケーション能力の向上を図る。ニュージーランド姉妹校との連携をさらに強め、新型コロナウイルス感染症による渡航規制解除後は、できるだけ早期に長期留学(1年)やターム留学(3ヶ月)ができるよう参加者の募集に努める。また、国内での英語学習プログラム(オンライン留学)の開発を行う。英語検定受験に向けた取組をさらに推進する。

④ ICT活用と21世紀型人材(ジェネリックスキル)の育成

iPad、PCや電子黒板等のICT機器を授業で積極的に活用し、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業等に取り組む。生徒が主体的・協働的に学ぶ態度を育て、コミュニケーション能力や問題解決能力や情報活用力、創造性などを伸ばし、社会の変化に柔軟に対応できるジェネリックスキル(汎用的能力)を身に付けた人材を育成する。

⑤ 健全な心身と強い精神力、豊かな情操を育む

健全な心身と強い精神力、豊かな情操を育むために学校行事やホームルーム活動、部活動のさらなる充実を図る。全ての教育活動を通して正しい行動、責任ある行動をとれる自立した大人への成長を促す。

⑥ 信頼される学校づくりの推進

授業改善と生徒一人ひとりの特性を見取る力の向上をめざし、教育相談・生徒指導の充実を図る。規範意識の醸成と人権意識の高揚に努め、生徒一人ひとりが大切にされ、いじめのない安心して通える学校づくりを進める。

⑦ きめ細かな生活指導の実践

基本的な生活習慣の確立をめざし、きめ細かな生活指導を行う。「挨拶・思いやり・感謝」の3つの実践を教育活動の基本に据え、連帯感と活気にあふれた学校づくりを進める。生徒、保護者とのコミュニケーションを十分にとり、いじめなどの問題に迅速かつ適切に対応する。カウンセラーや外部専門機関との連携を密にし、生徒や保護者が安心して相談できる環境を整える。

## ⑧ 部活動の上位入賞を目指す取組みを強化

施設の充実と指導力の向上に努め、生徒の部活動への意欲喚起と競技力の向上を図り、大会での上位入賞、全国大会への出場、入賞をめざす。

## ⑨ 学校のブランド力を高め、募集定員を確保する広報

今後の生徒数の動向や、求められる資質・能力などを分析・検討する中で、学校の魅力を再構築し、学校の特色や実績について発信し、地域や保護者の理解を深める。

## ⑩ 安心して受験できる入試制度への改革

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、令和3年度入試から、自己推薦書の事前提出と面接による合否判定を行う自己推薦入試を導入した。また、教科試験においては、3教科選択方式を導入することで、午前中に試験を終わらせられるように改革を進めた。令和5年度入試においても、受験生が安心して試験に臨めるような入試制度への改革を進めたい。

### <滋賀学園中学校>

#### ① 確かな学力・発展的な学力を伸ばす教育の充実

- ・5つの基礎力(知る力、読み取る力・聞き取る力、考える力、書く力、伝える力)を伸ばし、4つの実践力(コミュニケーション力、問題解決力〈課題発見力〉、情報活用能力、創造力〈想像力〉)で発展的な学力の育成を図る。
- ・教職員集団として組織的に教科指導力の向上に取り組む。
- ・学びの共同体の考え方に基づく授業研究に取り組み、教科指導力の向上に努める。

#### ② 子どもたち一人ひとりの自己実現(進路実現)に向けた教育の充実

- ・自己実現(進路実現)に向け自主的かつ粘り強く学習に取り組む生徒を育てる。能動的な学習形態を取り入れた授業改善や、個別指導、総合的な学習と関連したキャリア教育の充実をはかる。

#### ③ 海外研修や海外留学のさらなる充実

- ・海外研修や海外留学を通じて、国際化に対応した実践的英語力の育成に取り組み、英語のコミュニケーション能力の向上を図る。新型コロナウイルス感染症による渡航規制解除後は海外研修を実施し、長期留学に繋がるように取り組む。

\*カナダ海外研修(約3週間・中2、3)

\*海外留学(1年間：中3～高1)

#### ④ 主体的・能動的な態度の育成

- ・iPad、PCや電子黒板等のICT機器を授業で積極的に活用する。
- ・アクティブラーニングを取り入れた授業により、生徒に主体的・協同的に学ぶ態度を育て、問題解決能力やコミュニケーション能力、創造性の育成を図る。

#### ⑤ 健全な心身と強い精神力、豊かな情操を育む

- ・学校行事やホームルーム活動、課外活動の更なる充実を図る。人間教育の基軸づくりとして、体験活動と教科学習活動との関連性を高めるESDカレンダーのカリキュラム作成を通して、教科横断の取り組みから人間力の育成を図る。

#### ⑥ 信頼される学校づくりの推進

- ・授業改善と生徒一人ひとりの特性を見取る力の向上をめざし、教育相談・生徒指導の研修と道徳研究授業を組み入れた校内委員会で、事例研究や諸機関との連携を密にし、生徒一人ひとりが大切にされる授業環境、生活環境を整える。保護者会との

連携を深める活動の取り組みを、授業改善や生徒指導に反映し、相互理解を進める。

#### ⑦ きめ細かな生活指導の実践

- ・ 基本的な生活習慣の確立をめざし、きめ細かな生活指導を行う。「挨拶・思いやり・感謝」の3つの実践を教育活動の基本に据え、連帯感と活気にあふれた学校づくりを進める。生徒、保護者とのコミュニケーションを十分にとり、いじめなどの問題に迅速かつ適切に対応する。カウンセラーや外部専門機関との連携を密にし、生徒や保護者が安心して相談できる環境を整える。

#### ⑧ 学校のブランド力を高め、募集定員を確保する広報

- ・ 魅力を再構築し、学校の特色や実績について地域や保護者の理解を深める。
- ・ 日々の活動や行事など、生き生きとした学校生活(生徒の姿)を発信。

### (4) 滋賀学園中学・高等学校中長期ビジョン SHIGAGAKU “N (Newton)” Plan

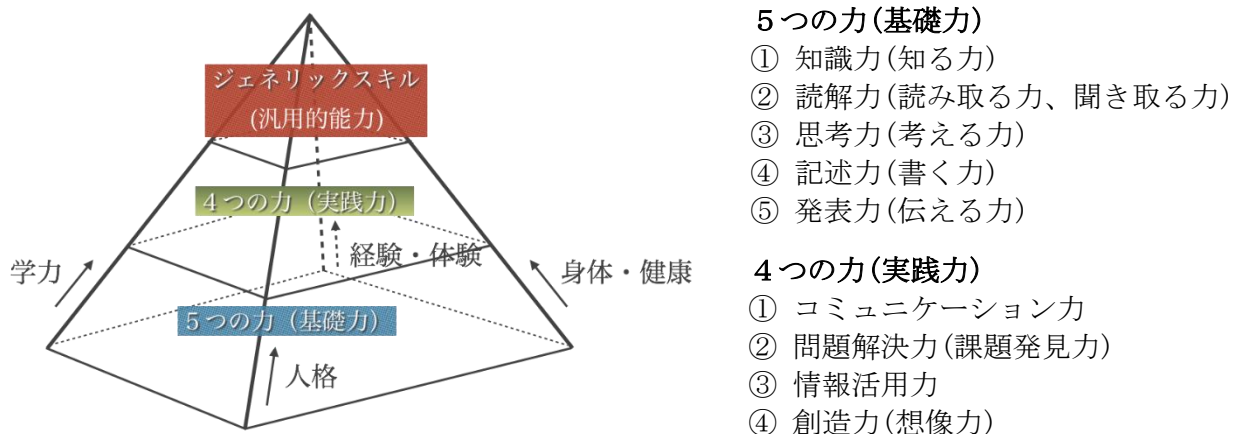
滋賀学園中学・高等学校では、下記の3つをビジョンと定め、中長期的視野をもち教育活動に取り組む。具体的な目標設定はSHIGAGAKU “N (Newton)” Plan の中で行い、検証と数値目標によって、より実効性の高いものとなるよう努める。

- ① これからの社会で求められる資質・能力を踏まえた実践的な教育により学力保障と進路保障に取り組む学校

～「学びのピラミッド」に基づく21世紀型人材育成プログラムの実施～

#### 21世紀型人材とジェネリックスキル(汎用的能力)

社会の変化に柔軟に対応しながら、他者と協力・協調し、よりよい社会の実現のために努力できる人。ジェネリック・スキル(汎用的能力)を身につけた人。ジェネリックスキル(汎用的能力)とは社会で生きていくために必要な知識活用能力のこと。



- ② 私学の強みを生かした先進的な学習プログラムにより県内教育をリードする学校  
～小中学校と連携した英語教育とプログラミング教育の実施～

- ③ 地域から信頼される私学として積極的に社会に貢献し、地域を支える人材の育成  
に取り組む学校

～地域の文化、スポーツ、福祉活動への参画と地域人材育成を見据えたキャリア教育の推進～

(5) 施設・設備の充実

- ① 多目的運動場造成工事
- ② トレーニングルーム改修工事
- ③ 教室照明改修工事
- ④ トイレ改修工事
- ⑤ 高架水槽、受水槽修繕工事
- ⑥ 前庭外灯修繕工事
- ⑦ 調理室水道修繕工事
- ⑧ 体育館(講堂)空調設備改修工事

### 3 びわこ学院大学附属こども園あっぷる

#### 令和4年度 こども園の保育目標と具体的実践計画

本園は開園以来、「共に力強く育つ」を保育目標に、子ども達一人一人が十分に自己発揮できるよう具体的な体験を通して人格形成の基礎づくりに努めています。

本園は、子ども・保護者・保育者・大学教員・地域の人々が共に学び合い、育ち合うことができるこども園を目指します。様々な人間関係の中で育つことにより子ども達は安心して活動し、より力強く生きる力の基礎を身につけ、子どもが主役の楽しい園生活を送れるように努めています。

#### 保育のねらい

0歳児、1歳児、2歳児は、自分のことが自分でできる子どもを育てる。

3歳児、4歳児、5歳児は、自分のやりたいことを見つける子どもを育てる。

#### 具体的実践計画

##### <5つの支援>

- 基本的な生活習慣を身につける：落ち着いて行動できる子ども  
自分のことが自分でできるようになるために、家庭的な雰囲気の中で支援します。
- 道徳性を身につける：感謝できる子ども  
人や物への感謝の気持ちを育み、生活の中で決まりを守るよう支援します。
- 生きる力の基礎を身につける：辛抱強く最後までやり遂げる子ども  
何事にも自分から挑戦し、困難に向き合い克服していけるよう支援します。
- 豊かな人間性を身につける：素直で思いやりのある子ども  
多くの人と触れあって人間関係の基礎を培い、豊かな人間性を育めるよう支援します。
- 学ぶ力の基礎を身につける：自分で考え工夫する子ども  
様々な遊びを通して、考えたり工夫したりして前向きに学べるように支援します。

#### 特色ある保育

開園以来、大学の先生方をお迎えして、幼児を対象にして4つの教室を通して触れ合い保育を実施しています。子ども達は、毎回意欲的に取り組み、あっぷる運動会やあっぷる発表会でその成果を、胸を張って発表しています。特にチアリーディングは、大学祭や東近江市イベント等に出演させていただき、多くの方々から賞賛の声をいただいております。

- ゴーゴーチア … アップテンポの楽しい曲に合わせて身体を動かし、リズム感を育て、体幹を鍛えています。みんなで心ひとつにしてコール（掛け声）をしながら、難しい技やスタンプ（組体操）にも挑戦しました。
- 音の玉手箱 … リトミックでいろいろな音遊びを楽しみ、音感を鍛えています。音の楽しさ、美しさを十分味わい豊かな心を育てています。
- キッズイグリッシュ … 英語を身近なものに感じ、親しめるよう音楽やお話、ゲームを英語で楽しんでいます。英語での自己紹介等簡単な発表も行っています。
- レッツパソコン … タブレットやパソコンを使って、ICTを身近なものとしてとらえています。パネルをタッチしたり、キーボードを操作して絵を描いたり、ひらがな遊びや音遊びを楽しんでいます。

### <3つの活動>

こども園は子どもと大人が共に育ち合い、力を合わせて生活するところです。子どもの発見から保育者が学ぶこともたくさんあります。子ども達一人一人が、進んで意欲的に取り組める体験の場を3つの教育の柱で指導し育ち合っています。

- ① 運動遊びを通した体力づくり：遊びや生活の中で身体と頭を鍛え心の感性が育まれます。  
身体を自由に使いこなし、心身ともにたくましい子どもを育む活動
  - ・大型総合遊具（ジャングラミング）等の年齢別計画に基づく体育遊び
  - ・遊びを豊かにする散歩・探索・園庭などでの自然体験
- ② 「であって」「ふれあって」「ひびいて」みんなが輝く保育活動：コミュニケーションづくり  
大学教員とのふれあい活動：いろいろな教室（特色ある保育）に挑戦し、専門の知識を育む活動  
大学生とのふれあい遊び：大学生との信頼関係をもとに豊かな感性を育む活動
- ③ 子育て活動：「ゆっくり楽しもうよ子育て」を合言葉に学び合い、育ち合う関係づくり  
あっぷる広場で親子体験活動、子育て講演会、子育て相談、食育指導などにより、本園の園児と保護者、未就園児と保護者を対象とする子育て支援を行う。

### <異年齢交流>

異年齢児が同じ遊びをする異年齢交流を大切にしたい保育により、子ども達が互いに認め合い、共に喜び合えるよう支援する。（お店屋さんごっこ、鬼ごっこ、わらべ歌遊びなど）  
・異年齢の友だちと一緒に楽しめる遊び

### <親子活動>

親子ふれあい遊びや親子製作を中心とした保育参観や運動会、親子散策、親子防災訓練、清掃活動等を通して、親子活動を活発に行う。

### ホームページの充実

情報公開（関係者による園評価）や子ども達の園での様子、入園募集等を広く公開する。  
保護者への一斉メール配信により、緊急連絡や災害時に備える。

### 職員研修

- ①教育・保育要領の改訂（平成30年度施行）に伴い、全体的な計画の作成および教育・保育過程の見直しを行い、0歳児～5歳児の長期的な発達過程を職員全員が共通理解し保育をする。また、保育教諭役割別研修や、県や市の研修に参加する機会を確保し保育教諭の資質向上や、保育・教育の質の向上に努める。
- ②人権研修を実施し、職員間や子どもの人権に十分に配慮した保育・職員の育成を行う。

### 職員の姿勢

- ① 合言葉「明るい笑顔と優しい言葉がけ」をモットーに思いやりをもって日々の保育に努めます。
- ② 保育の心「あいうえお」：愛情・意欲・美しい言葉・笑顔・思いやりの実践に努めます。
- ③ 目の前の子どもの姿から、常に学び続け支え励まし合う職員集団に努めます。
- ④ 一人一人の子どもを受容的・肯定的に理解し、丁寧な保育に努めます。

**新型コロナウイルス対策**

令和3年度も蔓延防止等重点措置や緊急事態宣言が出される中での保育となった。行事はその時の感染状況を踏まえ職員間で話し合い、人数制限や日程の変更、十分な換気や消毒を徹底して行った。令和4年度についても、新型コロナウイルスの感染力と子ども達の安全、保護者の意向等、情報を共有しながら無理なく行事を計画し、日々の保育を進めたい。また、新たに次亜塩素水噴霧器を各保育室に設置し、感染対策をしっかりと取りながら感染拡大防止に努め保育を進めたい。

令和4年4月1日予定園児数

1. 園児数 73名（新入园児19名……保育園12名、幼稚園7名）

区 部 年齢・学級名	2・3号認定			1号認定			合 計
	男	女	計	男	女	計	
	4月	4月	4月	4月	4月	4月	
あっぷる1組 (0歳児)	1	0	1				7
(1歳児)	3	3	6				
あっぷる2組 (2歳児)	4	7	11				11
あっぷる3組 (3歳児)	6	7	13	7	1	8	21
あっぷる4組 (4歳児)	9	4	13	0	3	3	16
あっぷる5組 (5歳児)	4	6	10	2	6	8	18
合 計	27	27	54	9	10	19	73

途中入所予定…なし

2. 職員数

常 勤（園長、副園長、主幹保育教諭、保育教諭）：19名  
 事 務：2名

合計21名

## 令和4年度＜年間主要行事計画＞

月	日 旬	園 行 事		日	健康安全な行事	日	地域に開かれたこども園の取り組み (子育て支援・小中高大連携含む)	
		園 内	園 外					
4	5 6	新入園児保育開始 あっぷる集会(出会いの会)		大学構内、園周辺散策	14	内科検診 は・ハ・歯の教室		
5	1 10 20 7~27	あっぷる集会 親子防災訓練 交通安全教室 全員個別懇談		大学構内、園周辺散策		検尿 歯科検診 視力検査・聴力検査 交通安全教室	18 30	あっぷる広場① ゴミO運動
6	1	あっぷる集会		近隣公園散策		食と健康教室 プール開き	18	あっぷる広場②
7	7 20 21	七夕あっぷる集会 終業式 1号認定児 夏休み					13	あっぷる広場③
8	1	あっぷる集会	5 5	5組 大風会館見学 1号認定児 登園日	29 31	プール終了 プール掃除		
9	1 5 28	始業式 あっぷる集会 運動会		大学構内散歩				
10	3 1 12 27	あっぷる集会 乳児活動 電車遠足 幼児親子活動	7 12	図書館巡回 電車遠足 いきものの森 近隣公園散歩	15	害虫駆除 内科検診	19	あっぷる広場④
11	1 3 7	創立記念日 びわこ学院大学学園祭に参加 あっぷる集会 自由保育参観(予定)	29	親子布引焼き体験(5歳児)			17	あっぷる広場⑤
12	1 7 22 23	あっぷる集会 もちつき大会 クリスマス会 終業式 希望個別懇談		大学構内散策		は・ハ・歯の教室		
1	10 11 19	始業式 あっぷる集会 1号認定1日入園		布引グリーンスタジアム散策			23	あっぷる広場⑥
2	3 10 18	あっぷる集会 2・3号認定1日入園 あっぷる発表会		大学構内散策	4	害虫駆除		
3	3 10 18 24	あっぷる集会 お別れ会 卒園式 終業式	8	お別れ遠足			4 4	5組親子清掃 保護者役員会
		あっぷる集会で誕生日のお祝い ＜大学教員を講師に招いた教室＞ (英語・パソコン・リトミック・チア)		毎朝の体操 マラソン・サーキット遊び ジャングラミング		避難訓練(毎月) 身体計測(毎月) 安全点検(月2回)		びわこ学院大学教育とのふれあい 学生ボランティアの受け入れ 近隣中・高等学校との交流 布引小学校との交流